

# 公園管理を通じた多文化共生コミュニティ形成の促進

名古屋工業大学大学院

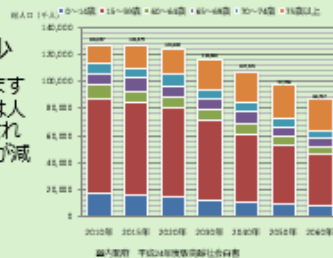
小林佑大 / 正彌智睦 / 中山雄貴 / 長谷川光太 / 石橋遼一



## 人口減少と外国人労働者の受け入れ

### ◆ 生産年齢人口 3600万人減少

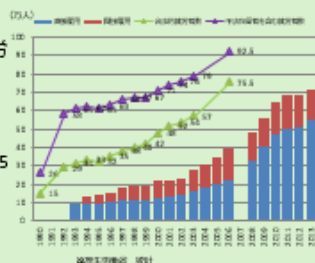
現在日本は人口減少社会に入っている。今後ますます人口減少のスピードを加速し、2060年には人口は1億人を下回り86,737万人になると予想されている。生産年齢人口においては、3,600万人が減少していることが見込まれている。



### ◆ 増える外国人労働者

人口減少に伴い、国内での労働力不足が生じることが考えられる。その対策の1つとして、外国人労働者の受け入れがある。

厚生労働省のデータによると登録者数は年々増加し、外国人雇用状況の届出状況は2013年に170万人を超えている。また、厚生労働省職業安定局の推計（2008.5）によれば、2006年の就労者数は92.5万人と、多くの外国人が日本で就労している。



### ◆ 外国人との共生

外国人労働者の増加に伴い、外国人との共生が必要となってくる。ただ、共生社会の実現に向けての課題は多く、子供の教育に関するものや、雇用・労働環境に関するもの、医療に関するものなど様々である。共生に関する定義は様々である。我々が考える共生とは“互いの価値観を尊重しながら生活を送る”ことである。そのためには、まずお互いの価値観を知らなければならず、互いが交流する機会が必要になってくる。

## 住民主体の公園管理

外国人との交流する機会をつくる手段として公園管理に着目する

公園管理とは、公園の美化活動や公園で行うイベントの実施など、公園の運営のことをいう。



公園は、不特定多数の人が集まれる場所であり、なおかつ親しみのある場所でもある。そのため、外国人などもイベントに参加しやすく地域住民と外国人の交流の機会を設ける場所として適している。

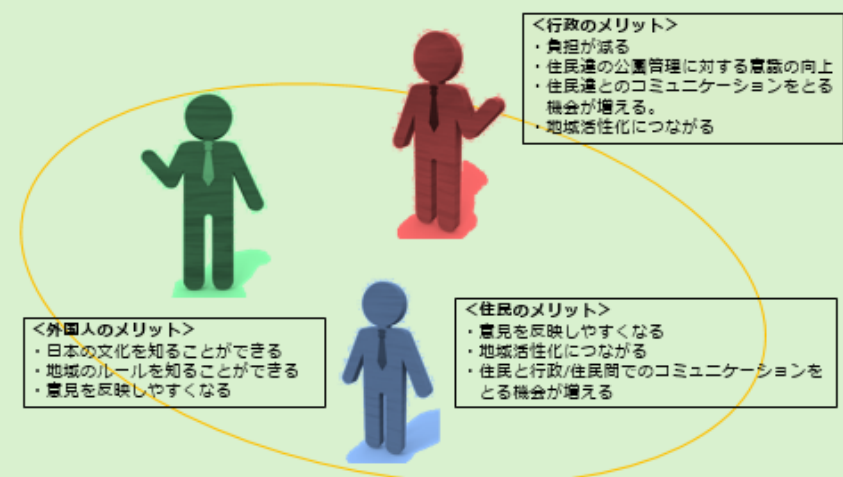
- 図書館やスポーツ施設などの屋内施設よりも、開かれた環境にあるオープンスペースのような空間の方が良い。
- 継続的に行う清掃活動、単発的ではあるが深い交流を生むイベント。この2つの公園管理が組み合わせることで、質の高い交流を生むことができる。

公園管理は、一般的に行政が行っている。しかし、行政が行う場合は公共性への配慮が必要であり、時間的な制約もあるので、公園管理活動を行う機会が限られてしまう。そのため、交流の機会を十分につくれない。

### ◆ 住民主体による公園管理のメリット

住民主体の公園管理とは、行政が信頼できる住民団体に公園管理活動を委託して管理してもらうものである。

- ・迅速かつ柔軟な対応がとれるようになる。
- ・行政と住民達との間のコミュニケーションをとる機会が増える。
- ・審査の判断や認可がおりやすくなるため公園の利用頻度があがる。



## 外国人との交流の機会が必要である

## 住民主体の公園管理は、交流の機会を十分に作る事が可能である

# 愛知県名古屋市中区 栄東地区における住民主体の公園管理

### ● 栄東地区（栄4丁目・5丁目）

栄東地区とは愛知県名古屋市中区栄4丁目5丁目地域の広小路通、久屋大通、若宮大通、国道41号線に囲まれた地域のこと。名古屋市の中心に位置する有数の繁華街であり、時代の変化と共に、フィリピン人をはじめ、中国人、韓国人、ブラジル人などが多く店を出すようになった。この地域は繁華街でありながら、居を構える住民が多いことが一つの特徴といえる。

- 1935年頃 官舎や高級料亭などが軒を並べる閑静な高級住宅街であり、学校も多く名古屋の文教地域として栄える
- 1945年頃 第2次世界大戦の戦火にあい、一面が焼け野原に
- 1965～ 旅館や飲食店などの地主・地権者がバー、クラブ、飲み屋に転身し、高級飲食街として栄える。

### ● 池田公園

栄4丁目と5丁目の境界に位置する池田公園は、昭和44年に開設され、市民に愛される憩いの場となっている。

昼間は子供を連れた外国人などが利用していて、日本人の住民だけでなく、外国人居住者からも親しみが持たれている公園ということが分かる。夜はダンスサークルなどでの若者の利用が目立つ。時間帯によって様々な利用者がある街のシンボルといえる場所。



### ◆ 住民主体の公園管理が始まった経緯と現状

名古屋市が池田公園の管理を行っていたが、“自分たちで公園の管理をしていきたい”という地域住民の声が行政が受け入れ、2013年から社会実験として住民主体の公園管理が始まった。トイレ清掃、木の剪定、遊具の整備などのお金がかかることは未だ、名古屋市が業者に委託しているが、清掃活動やイベントの管理などは地域住民が主体となって行っている。

公園でのイベントなどを通して、地域住民が収益を上げられるようになれば、現在委託しているトイレ清掃、木の剪定、遊具の整備などの管理業務も住民主体で行ってほしい。



1985～ 近隣の錦三丁目が高級な歓楽街として賑わいはじめ 対照的に栄ウオーク街の場末化という姿容がみられる

1990～ 飲み屋のままの高齢化やパブル閉業とともに多くのテナントが撤退し、フィリピンパブの入居が増加

2000～ フィリピン人をはじめ多くの外国人が暮らすようになった

### 日中と夜間で異なる街の様相を見せる栄4丁目



夜になると外人パブ、スナックなどが開店し、ネオン街となる。外国人の客引きが多く出現し、日中とは異なり物騒な印象を受ける。

日中は人通りがほとんど無く、閑散としている印象を受ける。フィリピン人居住者向けの食料品店をはじめ、様々な国籍向けの店が軒を連ねている。

外国人居住者と地元住民の間には言語や文化の違いから溝がある。特にこの地域の外国人の多くは水商売に携わっており、地元住民と生活のリズムが異なることなどから、地域住民と外国人居住者での交流の機会がなかった。



地元住民

不法滞在などのイメージから外国人である彼らの中に「まともじゃない人がいるのではないか」と外国人住民に対して「怖い」というイメージを持っている。



外国人居住者

「怖い」「関心がない」などの日本人の反応に寂しさを感じる。言語や文化の違いから交流していくのが難しい。



○立地条件  
栄東地区は繁華街に立地するため、活気があることが好まれる立地といえる。他のエリアと比べ、騒音などの問題が騒ぎになりやすい。また、まちの中心に池田公園があり、皆の共有できるスペースとなっており、イベントに参加しやすい

### ◆栄東まちづくりの会

行政 (名古屋市・中土木事務所)

池田公園の管理を主体的に任されている地域住民団体。栄東地域 (名古屋市中区栄4丁目・5丁目) の居住者若しくは在勤者を会員とし、「楽しいまち、住みよいまち、住みたくなるまち」を信条として、明るく安全で地域の暖かさを感じるまちづくり活動を行っている。

私たち住民が主体となって公園管理を行うことになるため、自分達の意見を反映させやすくなります。その反面で、私たちの責任が増すのを感じます。



### ◆栄東まちづくりの会の主な活動内容

栄東まちづくりの会 副会長の意見

- ・ 住民自治活動  
定期的な警備活動  
定期的な消防防災活動
- ・ 外国人との共生活動  
Xマスツリーデコレーションコンペに外国人グループにも参加を促し共生活動。盆踊り、屋台、金魚釣り、餅つきなどにも外国人グループ、外国人の子供達の参加を促し共生活動
- ・ 地域の文化、芸術支援活動  
なごや昇龍みこし、ど真ん中祭り、学生のアカペラコンサートなどの地域の文化芸術の発信地として活動。
- ・ 地域活性化のための活動  
イルミネーションの点灯によるまちの活性化活動

栄東地区がある中区は外国人が多く居住しています。今後、外国人は更に増えていくことが想定されていて、排除することができません。栄東まちづくりの会としても、外国人居住者を巻き込んでいき、外国人と共生を図ろうとしています。



栄東まちづくりの会 副会長の意見

## ★外国人を巻き込む公園管理

### ・清掃活動

毎週木曜7:30~8:30の間、池田公園を栄東まちづくりの会を中心として中区役所まちづくり推進室、地域に住むフィリピン人の居住者が協力して池田公園の清掃活動を行っている。以前(2003年ごろ)は、30名近くのフィリピン人男性が団体で参加していたが、団体の主要メンバーが不法滞在で逮捕されたことをきっかけに、フィリピン人の参加者が減ってしまっている。



地域の活動に参加していれば、摘発から逃れることができたり、摘発されたとしても(扱い)が優しくなるのではという考えがフィリピン人参加者にはあったためと考えられる。

### ・池田公園夏祭り

池田公園を会場として、毎年夏祭りを開催している。多くの屋台やフィリピン人ブースなどが立ち並び、学生や外国人バンドによる演奏、夜には盆踊りも行われ、地域住民に限らず、多くの人で賑わっている。フィリピン人は自助組織を独自に作っており、この自助組織を窓口として参加を促すことができた。フィリピン人ブースでは、まちづくりの会の方が作ったタガログ語で書かれた防災に関する冊子を配布していて、フィリピン人居住者の防災意識向上にも繋がっている。

### ・3on3バスケットボール大会

外国人との共生活動事業の一環として、2006年から夏祭り初日に実施され、日本人とフィリピン人の交流の場となっている。バスケットボールはフィリピンの国技であり、フィリピン人を受け入れる姿勢をアピールできる。



## ★まとめ

### ○協同作業による質の高い交流

清掃活動、3on3やお祭りなどは単に顔を合わせるだけでなく、一緒に活動するという交流を生むことに繋がった。外国人に何かをしてあげるといった一方的なものではなく、ともに活動するということがより良い交流を生むことができる。

### ○イベントを通じた情報の伝達

外国人との共生するうえで、どうやって地域のルールを伝えていけるかが課題となる。栄東地区の夏祭りでは、防災情報やDVに関する情報などを冊子として手軽に伝えることができた。このようにイベントを通して情報を伝えていくことは他の地域でも有効であると考えられる。

### ○国民性・文化に配慮

フィリピン人は自助組織を作るという性質を持っていたため、そこを窓口イベントなどの参加を促すことができた。また、バスケットボールはフィリピンの国技であり、参加しやすいきっかけになった。国民性(性格や考え方など国籍によって異なる性質)や文化を理解して交流のきっかけを作る必要がある。

これらは他地域でも活かせる知見である